

諸家系譜

三二九	冊	架	函	號	類	和書門
-----	---	---	---	---	---	-----

三二九	冊	架	函	號	類	和書
-----	---	---	---	---	---	----

內閣文庫	
番號	和 32649
冊數	225(143)
函號	156 23

位
大 多田 多羅尾 多紀 多喜

共二百廿五ノ内
共八十五



上河海
渡辺系十郎出

系謹

大
源

信和源氏
七百二拾番。堀田豊彦守

小菅屋堀源系十郎出
多田豊彦守

源姓

多田氏

六孫王經基子出多田渡仲、武流多田
尾遠、尉右宗、弟知輝、津國右任仕、弟
仕、弟、弟、領地、之、所、知、知

必能之紋

必知

赤子之紋

赤子牡丹

赤子之紋

赤子牡丹

牡丹之紋

牡丹

多田氏傳、尉右宗、領

慶忠

多田三吉

初代傳

母

必知

妻

必知

梅津出、之、出、生、以、之、奉、月、日、知

源人、之、出、生、於、津、河

神本、之、出、生

津、目、見、之、奉、月、日、知

交藏、國、入、之、知、之、内、多、知、以、之、出、百、人、知

下、之、知、之、出、之、知、之、出、之、知、之、出、之、知

仕、之、知、之、出、之、知、之、出、之、知、之、出、之、知

鬼、首、之、知、之、出、之、知、之、出、之、知、之、出、之、知

小治政院第... 而... 之...
 政... 忠... 一... 并... 之...
 右... 之... 改... 仕...
 上... 改... 仕... 于... 洋... 仕...
 浙... 仕... 仕...
 病... 年... 月... 咸... 代... 仕... 仕...
 法... 心... 書... 院... 閣... 卷... 慶... 忠... 不... 病... 仕...

於庶

多田所書

冊... 出... 知...
 書... 仕... 知...
 指... 津... 國... 出... 生... 年... 月... 日... 知...
 河... 月... 見... 年... 文... 武... 臣... 下... 官... 仕... 出... 知...
 大... 正... 藩... 和... 年... 是... 年... 子... 繼... 仕... 出... 入... 年... 月... 日... 知...
 大... 政... 吏... 治... 院... 第... 一... 級... 打... 仕... 知...
 實... 授... 仕... 知... 死... 年... 月... 日... 知... 法... 心... 書... 院... 閣... 卷... 慶... 忠... 不... 病... 仕...
 法... 心... 書... 院... 閣... 卷... 慶... 忠... 不... 病... 仕...

於庶

多田所書

母 弟 弟

出坐年月日

大猷公 御自見仕年八月日新法或年
如后法止性恒或河出羽等經在備令
保身年月日知父在慶お初此山性
能古而普入之江家分お初在立り水氣
牙少著法先知此中江辺内以役令
代知此る昔石角或百石差上座り
牙能此派經三回り保身年月日知

知新新或入會經此村江引進在在
兼應二卷己年六月廿四日宿死仕
度入入國經石飯村保山寺江家
法名健山源英

多田新

頼重

母 弟 弟

出坐年月日

友有公 御自見仕年八月日新法或年

若由彼人承以之者其内或有不差上之
位者沙之旨存之或或可也其年
月之由之少者其年也其由之由人
其昔由之由之由之由之由之由之由
其由之由之由之由之由之由之由
其由之由之由之由之由之由之由

天和元年辛酉年八月廿七日
知類之通小者其入之由之由之由
其由之由之由之由之由之由之由
其由之由之由之由之由之由之由

天和二年壬戌年
因之癸亥年三月廿七日
其法由空岸院
其本於空二男其後
其由之由之由之由之由之由之由

政貞
其由之由之由之由之由之由之由

其由之由之由之由之由之由之由

受母之原嘉年九月二日之男多助
河内見仕之後新祝也 嘉年八月
為時人受之未滿後也 經多用二千布
嘉年三月廿九日

松安

久野原 多用之屋

養母

嘉年

養父

河内 多用之屋

養母

嘉年

養

河内

出生國所見也

万原二乙嘉年生

天和二乙成年三月又新重彌之通年

養子 河内

同二乙嘉年七月養父又成之市

河内 養父 嘉年 七月 養父 又成 之市

貞子 元平子 嘉年 五月 廿九日 右 嘉年 嘉年

嘉年 改 經 官 者 入 之 校 能 也 也 也 也 也

元平 十一日 嘉年 五月 十八日 河内 嘉年

河内 嘉年

同十六癸未年十二月廿二日此水所成百石
此中分以五書少知者有長子其子
曾子子之海山身語其子其海山身語
此代官長多存尾四山右邊二男其五所
義氣年卷區子年能少知類之通其海山
年八月廿九日其後其五所成
享保九甲辰年七月廿七初八日其
病死其後其身其子其子其子其子其子
其後其身其子其子其子其子其子其子
三德四甲辰年其後其五所成其子其子

類之通其後 其先其書其後其子其子
其後其身其子其子其子其子其子其子
入其子保十二乙未年八月十七日其先
其子其子其子其子其子其子其子其子

類編

多田其五所

養良丹

其子

實又

多田其五所其子

實丹

其子

書

多田其五所其子

天和二壬戌年出

養父賴安儀知年養子仕後辰年

賴之通云 此中壬戌年八月

沖月見仕仕任長形任新親之至

室水壬戌年四月乙未任辰辰年三月入

室保九甲辰年七月乙未任之也元

同和

法在沖任院通云心親形

中子

冊 山

年養子於家書多遠世少賴縁儀
高死仕後辰年八月

多田昌八郎

賴辰

母

妻

室水字成年江生

父於安儀二男也順子賴少賴之通

作年八月

官年保十乙巳年八月二日又

知年養子也 此年之秋自來和年序進
將是後世此後比大書書知少以正書
相和以成之知少納言 此年之秋果
洋船物之 此年之秋果 巨細成之知
少在後世 此年之秋果 此年之秋果
顯現仕之知 此年之秋果 此年之秋果
此年之秋果 此年之秋果 此年之秋果
此年之秋果 此年之秋果 此年之秋果

有德公 此年七月三日 此年之秋果 此年之秋果

此年八月十二日 此年之秋果 此年之秋果
此年之秋果 此年之秋果 此年之秋果

此年之秋果 此年之秋果 此年之秋果

此年之秋果 此年之秋果 此年之秋果

此年之秋果 此年之秋果 此年之秋果

母 子

享保十六年三月廿一日
初十日 院者打本
承承子 延若林之右衛門重通 承子 次

知在... 後... 延... 院者打本

相續

養母

養父

養母

書

小重保大將北市...

作修平右位卿母

正之院若久保...

每升其也二男

桐之...

打平院...

而商... 多由...

享保十六年三月廿一日

有德之... 養父... 延...

享保十六年三月廿一日

延...

以...

因...

因...

因...

因...

本...

洋領者... 所將... 先年... 燒... 實... 四年...

有... 甚死... 河... 後

同... 七月... 日... 涉... 初... 同... 年... 三月... 四... 日... 嘗... 養... 文... 以... 或... 元... 而... 有... 酒... 井... 在... 橋... 射... 殿... 云... 仰... 後... 終... 國... 了... 涉... 統... 中... 上... 年... 月... 日... 亦... 知...

安永元壬辰年二月廿二日... 大田... 同... 二... 癸... 巳... 年... 三... 月... 二... 日... 嘗... 養... 子... 於... 仰... 舟... 本... 師... 三... 日... 及... 於... 山... 花... 田... 國... 人... 於... 仰... 後... 仰... 舟... 同... 八... 日... 亥... 年... 三... 月... 二... 日... 嘗... 養... 子... 於... 仰... 舟...

經之江戶藩少將長子會遠山勘定三郎是
四男守山為第五子其年卷之子任江戶藩
同九年庚申年四月十六日歸之同卷之子
其江戶藩少將所生之子及江戶藩同人之
其師後小

天明二壬寅年六月十八日高康身任江戶
少將少郎

同年七月廿七日高康身任江戶藩少將
其師後小

寶曆七乙卯年七月九日高康身任江戶
其師後小

中子

幕北門守早高康院茶火高福高福樂

母

年卷之子多田高福高福樂

利信

母

寶曆九己卯年二月九日高康院後樂
其在幕之子多田高福高福樂

中子

母 長女

大書前平右衛門尉康時於母名孫子口
嫁多田少保仕左大臣少輔

初名久壽郎 多田伊藏

法定

長母

多田長少輔長女

実父

大田東出守少輔長女

実母

家女

安永七戌戌年二月十八日法定公儀初元
付実方元大田東出守少輔長女長女

及辰彌之通如納言少輔及之河原

幼名多田少

多田長少

松右

長母

多田長少輔長女

実父

多田長少輔長女

実母

多田長少輔長女

妻

多田長少輔長女

宝曆十庚辰年九月初一日生

及辰彌之通如納言少輔及之河原
及辰彌之通如納言少輔及之河原

每永八己亥年三月二十四日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日

同八己申年五月二日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日
同日九月子年四月十六日

涉免之成以先世國人此世身許御後書法
但前田安房守子胤之故也

朱子年手始涉院之曰是城可出也
前田安房守子胤之故也
此書守安及對馬守殿守後之故也
安房守子胤之故也

河流取裁仕也于後長子胤之
同十戌年年二月廿九日海邊年十
少胤之故也

知所新實列入五部一月洋任仕掌月之

為出役金代之引之月或百石差上
年月日也

元禄十六癸未年常陸國龍石磯之
先租市之台於此安海浦由安五石差

洋領仕也年月日也後卷良人多因
勤負租稅多合多能立少亦由海
尾港度海也年月日也差上

宝曆八年亥年二月廿九日打年格律之
安後後代地之深四町多也

早坪由愛洋領仕の千後少石の家坂
新所九千坪余法書院而之并多証少備
此所及控令印の由及お對登

天明元辛卯年十一月三日朔之通至念
丹後之殿八少身之御坂少後少書院從
之紀從民相勅也

御書院法用量人見原信馬 同人由及在所
領所而千少坪小書院從坪月或証少紀
九少地之在 同人由及少日向水所
行所五少坪余之月二少坪余和由及

二方お對登

寛政二庚戌年十一月廿日申領少由及
同年十二月廿七日辰及二方お對登
此作身之記年信多殿証少後少紀
小書院從民相勅也

多田

多田

冊

多田

宝曆六丙子年八月廿六日
石村之民宿見之身之入札証
明和八年卯年八月廿六日

候年級少同月十日越原海江作年
水野少少少級旅西毛出同人心海少傳
信海少

来

母 同

宝曆七丁丑年八月十日江戸生

明和二乙酉年九月十日九歳三才死

葬地同少

法名甚多雲沙之大喜子

少子

養子甚多八所親在甚

母

同

来

多田己子助 幼少身名甚多

母

同

多田甚多親在甚

養女

養女

多田甚多親在甚

養女

少於海江少少少少少

特許体正成信

養女

少於海江

特許体正成信

寶曆丁巳未年九月十日一校及信例白

少少少少少少少

右ノ用書法也

三五石 度藏 中岡 常陸 生國

洋願 向 水 行 所

寛政十一年 冬 月 多田 守 為

四十歳

二月 後 迎 年 十 以 子 出

系 譜

七百 拾 五 増 田 守 為

法 和 守 氏

大 係

多田 守 為 氏 系 譜 後 迎 年 十 以 子 出 多田 守 為

信和源氏

多用

人王幸六代信和天皇後胤記与厨将軍
宗藏子孫長子嫡男孫傳也信仲忠孫多田
三所昌賴源朝三任云官多用治源寺三利
唐衣田陸多守信允及大信方更時信三利
嫡男多用治源寺長子三治源寺源境致死云

弟之友

獅子牡丹子

孫之友

九月のころ子

孫之友

九月のころ子

編祖
正信

新花

実生

右正信又三八の長俊

大誠云

養育正信奉仕沙唐神昔以書初信氣云

少童信入男子云し山守貴志何信

忠治信男養子守頼少知然と通事守

主後主母後男子出仕及未於介知

守頼少知

養育正信

寛文二王三年十一月九日彌子通養長子

正信占記或之百名長子正信占介知

或言在帝... 信... 市... 信...

同九己酉年六月朔... 同三壬子年六月... 武作二粒所...

戒心寺... 移法名... 院可免日如

丹

家女

妻

三法

寛文十一壬子年七月十日... 延宝二甲寅年二月十九日...

伊藤氏... 貞享三年三月九日... 元禄七年四月... 同年三月十日... 元禄七年四月... 於完德院... 通塞... 小善信... 同七月... 伊藤氏... 貞享三年三月九日... 元禄七年四月... 同年三月十日... 元禄七年四月... 於完德院... 通塞... 小善信... 同七月...

通塞... 伊藤氏... 貞享三年三月... 元禄七年四月... 同年三月十日... 元禄七年四月... 於完德院... 通塞... 小善信... 同七月... 伊藤氏... 貞享三年三月... 元禄七年四月... 同年三月十日... 元禄七年四月... 於完德院... 通塞... 小善信... 同七月...

卷八

大善信 新元正信

河内住山右左衛門右衛門正平治承元年婚縁由縁
前十河内右衛門正平治承元年婚縁由縁
実子治男 多田住山

父北左衛門正平治承元年婚縁由縁
右平治承元年婚縁由縁
正平治承元年婚縁由縁

女子

山平治承元年婚縁由縁

女子

小治承元年婚縁由縁

女子

山平治承元年婚縁由縁

女子

山平治承元年婚縁由縁

三倫

多田住山 正平治承元年

寛保二年八月上旬父北左衛門正平治承元年婚縁由縁
家督正平治承元年婚縁由縁
同正平治承元年三月上旬父北左衛門正平治承元年婚縁由縁
正平治承元年

子所同姓... 宝曆七年六月十日... 少俊... 元和二年... 戒以...

母 妻 三害

大少妻 小在... 院系... 氏...

宝曆二年... 西九月... 寛政二年... 同六月... 年... 氏...

同十戌年三月後延平十以子死百以
後明公御中

皇曆丁亥年二月後延平一仇
上所名古和全或教母領仕
明和元甲申年二月後延平上兒
古和及為之友洋領仕

母

高

可助
院系平清重
甲辰年
以和元乙子年只原身難保仕

三德

惠願多田十山屋

寬政二庚戌年二月廿日長部右任
院者長部丹波守佐山貴人
同八月辰年二月十四日西丸山守
西丸山院若水見伊藤守經在哉
右之通達者山山

三石上院 生國氏藏 洋領由浦年

丙辰年

寬政丁巳年九月 多田院

[Faint, illegible handwritten text on the right page]

未二月第
丙辰甲斐守

系謹

法和係氏
七百五拾七番。切用是守

八
美江月
源

大崇丙辰甲斐守

多用三八

源姓

多田

人王幸正平清和天皇後胤範子尉正平氏藏也
從善少孺實格律之從仲也源多田正平氏
二男多田正洛守昌利屬甲乙西田陸國者信亮
及右佐右文昭信昌利屬多田正洛正洛正平氏
洋國陸城也西國在石城居之知正平氏
多田正洛正平氏長孫討死官多田正洛正平氏
多田正洛正平氏西田正洛正平氏正平氏

三作男
三作

新八郎 三八 八五

幕之紋 柳子牡丹
家之紋 九段之字
九の文字

但此の文字は後述の西田正洛正平氏の中

母之系

書

前并作多子也

甲乙正平

存正平氏西田正洛正平氏甲乙正平氏

天正十年三月廿日

神名甲辰神入國之御社古由同九月廿甲辰

安堵し 御奉行に裁仕今祈仕

右 御到物字

甲辰志目内百

其文板垣内拾

文押紙拾其文拾

利内五少九百文

下素系拾其文

并仕支文丸由

小事

其本領之申云

上之方不家不

可有取遣以

可抽家忠之

也

天正十年 九月廿日

九月廿日 多田三八

其後天正十一年尾之長久手

十七歲之涉歷仕三之石方之許部夏長
十二未年九月十八日伏見二年以書中在在
年器式葬地之知

三長

三八

丹部少知

園井伴實之女

妻古少妻

其志深遠侍忠純母

甲斐國出生

右三長成慶長八年八月之末大書此父
新御身是後俊

神若上意 上儀女成信也附之御身是後上儀及成

濟勢也信之御身人仕大書此志以信之傍

忠信也新御身春而村引進也其知

享永八年

古禮之御代也 古出於上意國志國志其意

其志大書也田中成政也其意也御身

成有之進御代也古也仕也成也其意也御身

御身也其意也入御身也其意也御身也其意也

其意也其意也其意也其意也其意也其意也

其意也其意也其意也其意也其意也其意也

喜後男子出仕及書記多知事能至
寛文二三年十月廿七日午時九時五十九分也
川内之原五老守其

三重

右三重役人重吉と初重死仕少く家系不
有(一)海内此部少知

三重

新八郎 (市書局)

右三重役人重吉と初重死仕少く家系不
大敵公河代新就半人繼任百出主後満人
此部少知 伊中八郎月少知此部少知
大書物内蔵以組多由市書局 市書局

妙子

初重

豊后十屋書局

三次

又三郎 三八

養母

半志原信房也他母

実父新書少知

半志原信房也他父

実母新書少知

山中九郎又母

妻

養父多田三八三長女

右三次役

養父多田三郎養父三八三長女也
右三次役 寛文二三年十月廿七日午時九時五十九分也
川内之原五老守其

善入... 後... 繼...

元... 年... 入... 年... 月... 日

高... 年... 知... 寺

女子 卷... 多田... 三... 八...

三信 新藏 右... 位... 成... 是... 年... 初...

後... 有... 公... 濟... 代... 室... 文... 三... 年... 二... 月... 九... 日... 多... 知... 二... 百... 石...

小... 善... 法... 院... 後... 通... 年... 十... 月... 日... 死... 多... 田... 村... 上...

三慶 十... 八... 二... 八

母 多田... 三... 八... 是... 女

妻 後... 及... 法... 院... 女

年... 在... 出生

右... 三... 慶... 女

常... 宮... 公... 濟... 代... 元... 祿... 三... 年... 甲... 子... 十... 月... 九... 日... 生...

室... 永... 四... 年... 近... 五... 年... 在... 如... 女... 坂... 上... 善... 先... 年... 相...

首... 志... 氏... 三... 信... 忠... 親... 五... 官... 卷... 子... 十... 月... 九... 日... 生...

同年八月十一日病死年十八葬地希寺

三英

七虎(廣) 三八

表母山房中書

後友法友(廣)也

實父山房中書

其志(廣)係忠於唐

表母山房中書

石師(廣)係忠於唐

表母山房中書

後友法友(廣)係忠於唐

表母山房中書

表母山房中書

常憲(廣)代(望)永(四)至(年)七月廿七(日)卷(文)字(多)子

表母山房中書

同年三月廿六日大(中)書(籍)系(籍)河(中)字(籍)貴(入)

表母山房中書

正德五年二月(日)係(廣)神(系)實(母)方

係(廣)金(九)四(常)係(廣)中(並)政(二)成(系)因(三)月

廿(日) 清(月)身(見)遠(意)云 係(廣)因(年)五(月)廿(日)

表母山房中書

正德五年七月(日)係(廣)係(廣)林(在)仲(子)

改(在)江(右)忠(上)歸(是)門(在)河(右)至(年)五(月)廿(日)

表母山房中書

河内見喜丸寺 御身同十月二日 御先
御出大坂五番在御其後
寛保四年二月廿六日 菅原誠經公御命
御身御身御身
御田若狭与御身 宝曆七年七月廿日
病死仕年七十 葬地古寺

三斗

養母

実父 二九 御身御身

後御源吉保信母
永井源吉御身御身

八五八 三八

養母

御身

妻

美文

多用三八三美女

後妻

松平市之御身御身

後妻

河内御身御身

御身御身

御身

有徳公御身御身 延享二年定二月四日 養母美文御身御身

御身御身御身御身

寛延元年 養母美文御身御身

九月朔日 御身御身御身御身

河目見仕在宝曆七年七月十五日卷受
 三英病死仕在舟同年七月八日江或元子
 小重治组宗十三子也死候
 宝曆九年春四月昔松平友成死之而
 大重治组大重也组也若入仕 仕舟也
 同及甲申也也仕在舟也
 多子也 庚午年三月廿二日死候
 女子 卷良子 多田三八心奉妻

三道

冊

續三冊

河合合人 河合女

妻

安永二乙年二月廿二日卒也

系手在續三冊

右私惣願三道候

安永代宣政元貞年七月初多目在私也

河目見仕其後

同六宮年二月高口部仕候

由若入仕 仕舟也切也 二宮儀也

内西以組候

同七年小令系也麻也

文化二年七月五日河目

女子 右 多田三八 保教書

女子 右 多田三八 保教書

女子 右 保教書

女子 右 保教書

女子 右 保教書

女子 右 保教書

女子 右 保教書

系 功部物

右 通 西 在 山 上

高二百俵 上徳園 下徳園

本國 表長方 播磨 生國 茂藏

経 願 山 為 若 荷 若

二十七年

寛政十一己未年三月 多田三八 為

三月廿八日
小笠原宗茂

大原

注和傳氏
七百之谷三番。地田是之方
□

小笠原宗茂

多田之四郎

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

備和源氏

多田

先祖源仲分御所繼没落之後
未深後親皇後國母任仕于後軍列
而田家亦年々信別處空家山至成仕
于前公流傳也

幕之收

九月一

家之收

幕之收

望之收

幕之收

昌隆源氏之源多田治所書畫昌隆源氏

昌貞

母

昌隆源氏

昌隆

元和八戌年

新田治家

寛文二壬寅年二月書院書畫昌隆源氏

同年五月十日

延宝三乙卯年四月書院書畫昌隆源氏

同七己未年二月九日書院書畫昌隆源氏

首中瑞高寺藥法名常信院

昌次

北山五丈

養母

実父

実母

明曆元未年生祐田清庵

延宝七己未年二月奉入法式

由小姓從出書信 信守如書仕

相立屋申年丁月

淨徳院柳西丸清移院 勤書仕

清題立心後小書法信 信守如書仕

年月日品名

元禄七年三月廿五日奉入山中寺高徳

元禄十丁丑年三月新書信 信守如書仕

元禄十丁丑年三月

同丁戌亥年八月廿九日奉入仕四信由

藥地同歩法名如信院

昌全

親馬

養母

信守如書仕

実父

実母

延宝三年生

元禄十一年三月十八日奉受江户幕府

小普請御用被母信守御入

同十一年二月十日相之方御入

御付申付同年七月十日申上御入

御付申付同年二月十日申上御入

入御付申付同年二月十日申上御入

御入初年二月九日

小普請

御用被母信守御入

御入

御目見御付同八月十日御入

御入

室永元年申年二月十日奉受江户幕府

御付申付同年二月十日申上御入

二徳四甲申年二月十日奉受江户幕府

御付申付同年二月十日申上御入

御入

享保九年辰年二月十日奉受江户幕府

大御所御用被母信守御入

同十七年二月十日奉受江户幕府

東河之殿... 高... 系... 子... 通
同十九甲... 年七月四日... 小... 入... 後... 内... 藏... 子... 死
宝曆四年戊午十月... 死... 八
葬地... 法... 昌... 全... 院

女子

昌和

二回

母

大少

和... 深... 金... 院

正徳元年卯年三月十八日生
享保十六年亥年二月廿五日長... 院
入... 昌... 院
同十七壬子年三月廿四日
小... 殿... 昌... 院
同十九甲寅年五月廿四日... 院
... 院
... 院
... 院

明和丙子年三月廿七日又二十四日男
神等事狀由通証或見其小童位但
相年九月廿五日入
同七年庚寅年三月廿六日病死或拾遺或
棄池門步法在室成院

昌宗

若任事助

又和島

三四

母

妻

妻山名子

水田山名子

山名尾岩

小林植之助

明和元申年五月朔日出生

同八年辛二月廿七日又二十四日男
神等事狀由通証或見其小童位但
相年八月十八日病死或拾遺或
棄池門步法在室成院
同九年九月廿五日入
同七年庚寅年三月廿六日病死或拾遺或
棄池門步法在室成院
同八年辛二月廿七日又二十四日男
神等事狀由通証或見其小童位但
相年八月十八日病死或拾遺或
棄池門步法在室成院
同九年九月廿五日入
同七年庚寅年三月廿六日病死或拾遺或
棄池門步法在室成院

寛政二戊午三月十日新書古抄書
 松田書齋傳入同年八月廿九刻
 任身古抄書存傳入
 同丑丑年二月廿七以上
 上院書每時後二時
 七日水官多屏
 同六亥年五月廿八
 河經石字子死入
 同丁未年五月廿六
 配古抄書

女子 早世

昌叙 母 清五郎

昌助 母 山藤

昌儲 母 在之助

右三通江流山

三書五卷後 中國兵燹 洋領全補 東野板馬屋

宣政十七年

多田二四市丁昌榮馬

三卷

未上二月廿九
多田中務人出

系後

後和傳氏
七百辛八妻○城田是第也

大

源

小善信傳
多田中務人出
多田百二丁助

清和源氏

多田

先祖院守府將軍從四位上左馬廐
頭中將多田卜是公侍之弟右兵衛督
多田

多田

鳥羽之役
在之役

去

一葉卷之四十二

善之役

凡二卷卷之六

聖之役

卷之六

人皇辛之次清和天皇十一年六月皇子貞純親王
攝政之孫王經基長男左馬廐頭中將攝政
賴光其子左馬廐頭親國二世孫人從源後亂

昌隆

滿朝

三十八

昌隆國任攝政甲斐國占弓矢持以之
在職家用信凡三三三三三三三三三三三三
有之之之之之之之之之之之之之之之之之
攝政之次清和天皇十一年六月皇子貞純親王
攝政之孫王經基長男左馬廐頭中將攝政
賴光其子左馬廐頭親國二世孫人從源後亂
永祿六年五月二十日死

葉地佐伯子佐防角山岸

号宗榘

昌後

滿吉

之八郎

母

必為

妻

全存能系子名義也

生 貞隆

如父將子力之性新之位以處其也
在故位也古也之存

永保十丁卯年甲戌又國之三進

昌綱

同年二月十日二十日也言
許也 一系代以知 号昌綱

之八郎

母

全存能系子名義也

妻

必為

生 甲少文

永保十丁卯年三月十日也昌後討元
昌後妻之先也係在國尉也
子也 長也母子二人也

正平五年四月廿四日

權現作事 石部

元正十五年二月傍敷生言了後先
方者有石部氏之事 信長社創其
權現様 沖國志天仁成親在石部
杉井市屋敷 正平五年甲子石部川
沖國志云 信長社使侍方始通石
部山也 志云 可石部氏云 仰付書子
石部氏傳地云 石部氏
同年信長生言石部氏

神名所由之石部氏川書之內杉井市屋敷

正平五年 石部甲子 石部氏川
石部氏門外石部氏

上三意成川之者 合石部川 石部氏
石部氏子妻出法計第一 石部氏
石部氏之石部氏 石部氏

神名所由之石部氏川書之內杉井市屋敷
石部氏傳地

同年七月申旬

神名所由之石部氏川書之內杉井市屋敷

新國見云

九月下旬通山系之河野氏... 子養... 氏出古... 侍中... 河野氏... 知所... 河野氏... 河野氏... 河野氏...

河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏...

河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏...

河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏...

河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏...

河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏... 河野氏...

乞止仕諸人妻子諸君終身國年上
同十四丙戌年三月庚辰日者
河判物始

在河判物中

河判物之成河判物之者

河判物之成河判物之者

河判物之成河判物之者

天正十八庚寅年小田原河判物之成河判物之

同年

河判物之成河判物之者

河判物之成河判物之者

河判物之成河判物之者

同十九年卯年河判物之成河判物之者

河判物之成河判物之者

河判物之成河判物之者

河判物之成河判物之者

河判物之成河判物之者

河判物之成河判物之者

河判物之成河判物之者

蒙長三幸此年尾法殿為御守行内附
於甲子江也如使三百七獨
同十九己年二月八日九二年九

女子

母

若井地中知
寺名田流法之
並名助意向室
今在能可也麻事

昌繁

母

此知
寺名田流法之
後御守改

生江府

父昌隆在云云昌繁知少身成人仕道
也如信之代三百七上云云知孫願仕
弟云云通

名德云所奉公中上及云成能事人云云
中上如然通中知云云五年

御自是仕云云政所係云云如多往後也
從云云合云云所係仕云云
元和九年壬午年遷所云云如云云
云云如云云如附大云云仕云云

寛永十一年庚申年秋

大猷公少枝持方揚

因十六日卯年秋 下統至迎候於
横園村知所 百四拾三石揚沙天寺
此書也 此付

寛文二至三年二月由元死七年二

真不若中慈金山持福寺

等 光喜多院 高宣

寛永九至甲午年法河古石地 石道

河川之末其寺在四人之内法天寺書也

四人由屋敷書也 丹人由屋敷書也 或人

少佐也

相平年此家持書也 八人之内 作年之先後

沙りし者其大書也 作年此家持書

作年内人

寛永二年癸卯年

後有云 此書持子孫近也 石道此屋敷書也

此 作年其大書也 大書二書也 近

小十人經也 此書也

昌明

母

女子道徳坐
家女

生江府

年月小呂部父死後海目少子

友有云河内

出天守西若云河内

延宝二甲亥年七月廿五死

葬河内等 号圓心院実親

昌貞

女子道徳

母

上月

寛文二壬寅年三月新祝云百出

出付小書道多田二四山家云云

昌行

母

上月

八三信

寛文四年外年新祝云云

出付小書道多田二四山家云云

昌貞

母

上月

新八信

万治二乙亥年八月新祝云云

女子

母

有

當時在書多田知正師來書

中根信三郎

昌次

母

有

三八師

生白府

延宝二甲亥年三月父昌明在後跡目

之由公小量程入

同七巳未年八月高死

葬本因寺

号魯月院親宣

昌強

母

三八師

表良母

実父

実母

書

生白府

在昌強成多田知正信熱願

實

多田八信信四行

不知

居系海系

押出表親後

係在書

平泉子之八所昌次方在卷五子平成
年月日必知海目也 仍付小童信入

常憲公御代

元祿六年閏年五月十九日平人轉入
傳戶造り信入

同十丁丑年五月廿五元方直納海目平官
松年庄信入

同年二月廿五日平元方直納海目平官
武而信入 仍付

享保七至享保年十月十七日死

葵雨園寺 号 齋系院日葉

母

二名

書

平泉庄信入
武而信入

生巨厨

宝永六年己丑年四月六日平信入

在出大出岩松年志原信入

同月廿五日信入

享保七至享保年三月廿五日自

平河宗重 經 既 既 宗 重 子
 延享五年辰辰年六月廿七日 逝 逝 逝 逝
 左 攻 左 攻 音 冰 沙 仕 仕 仕 仕 仕 仕 仕 仕
 宗 逝 元 戌 辰 年 九 月 二 日 葬 小 重 治 河
 清 巨 宗 子 亂 入
 同 之 庚 午 年 八 月 廿 五 日 死
 葬 取 同 年 号 三 五 院 日 宅
 但 京 左 攻 左 書 拾 或 度 沙 味 之 成
 御 目 元 根 拾 殺 之 始
 外 代 人 代 人 在 矣 之 教 示 知

女子

母

上向

有 確 公 濟 代 年 月 日 知 濟 中 九 左 矣 知

百 分 沙 度 矣 相 知

多 保 干 乙 卯 年 五 月 廿 六 日 死

女子

母

上向

女子

母

上向

女子

母

上向

少子

早世

上國

昌久

侍久 万三郎 北條氏

之公布

卷長母

三

実父

大河原山崎侍高四男

実母

酒井源三侍母

享保元西申年三月廿二日生江府

存之八郎成母万三郎之侍高四男高四男

之成母

元文五庚申年五月廿五日昌成之系

五番侍所沙院之昌久成母

河内之住

享延三庚午年二月廿日自小菅江住

川侍直系子成入

同年三月廿日大出普酒井山和成入

大出成前子成入

宝曆九己卯年二月廿日自成入

勤子金成成母

明和七庚寅年二月廿日石河成母

孝

孝子 多田三郎昌久
天明元年甲申年五月廿九日卒
享年六十有九
葬所 口年
号 甚通院日流
但系方政至善檢度之能
河内人 徳治教了 徳
組 氏 作 身 世 後 二 一 徳 教 合 世 後 止 徳
外 氏 人 代 人 一 江 世 治 教 了 知

孝

母

母

右 氏 三 郎 昌 久 母

昌

母

書

昌子 多田三郎昌久
延享元年甲申年八月朔日生
宝曆十一年己未年九月朔日卒
享年六十有九
葬所 口年 昌久 母 氏 氏

河内之仕于後皇久成其業者永井伊三也
但事以之也
天明元辛丑年五月廿五日
同年七月廿日
小笠原信從水井伊三
之也入
寛政七乙卯年六月廿日
田中勢五郎
之也

石之通海濱之上

三式百在下
平國 英家 津原 勿安
生國 英家 中林 何共目

月辛七後中藏也

小笠原信從

田中勢五郎

二十六

寛政十戊午年三月

多田万三郎

美

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

清和源氏

多田

第之紋

云

九月一葉茶之草

第之紋

茶車

多田清源昌院四代源

多田清源昌院四代源

昌行

八之信

母

古来道河邊

書

所知

生男如
交在四年分年部親等
不也

甲府宰相局古沙性角
奉行

宝永二丁酉年四月廿九

兼所管津島寺院佛寺

寺之三院四舍

昌強

一物三本

冊

昌強

之八節

年月日知小書法多田二以布昌強
卷長のり石紙

昌善

小十節

冊

書
來女

右小十節儀
想願
宝永二丁酉年八月廿九日

同奉九月廿五死

葬新園寺 号云台院日誓元五

昌信

母

妻女

小八郎

生江府

宝永元酉年迄同小童信入

正徳元未年三月廿五死幼少身中亦

以能仕也

葬所口寺 号宝相院日具

在之廻道在也以上

寛政十戌年三月

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

多田清造等品物所持之取

一 多田清造等品物所持之取

本威林之威林二年 御系下禮文

一 本威林之威林二年 御系下禮文

一 馬布 或ハ 白地 白紋 或ハ 白地 米反 或ハ

一 ツワニヤ加太日

本多宗今ハ新所持也

未三月廿九日
堀内蔵次郎

多田清造
七百五拾九番。御用之取

系譜

大原

大原
堀内蔵次郎
多田市(信)

源氏

多田

全平六代澄和天皇後胤額守府好守
氏藏の孫孫の嫡男孫孫の孫孫孫孫
多田守少昌親一男多田澄少昌利
属

甲子紅氏田陸國守信元乃乃孫守文
昭信昌利瑞芳

藤之紋

のこら子

菊之紋

乃自乃乃子

家之紋

在因乃

智之紋

乃自乃乃子

右聖紋乃乃のこら子者と祖多田陸守

昌利守乃乃田陸國守信元乃乃孫守文

昭信乃乃属羅乃乃御氏切乃乃孫守文

澄乃乃乃乃乃

多田澄少昌三少昌

三少

多田少昌三少

在本書之三卷後世亦多節多時大山者
肉多中由幸從多田三八本年六月廿八日

多田公實之官二方
正重

始新山所
弟七條

母 知少知
苗井信少多女

妻 少知

辛卯日少知亦入江出生

大朝公卿代辛卯日少知新就中人組
此切亦而後始人校好少知是後遺傳人
少者習之 仍牛少知始於人校好少知而後

此和傳洋領仕社令身而後成
多年類鏡之解書而宋鏡之注書和女
少知延家之外年八月廿四日也年少知終于
吾國寺上葬年八月廿四日也

三次

新山所

妻良母少知

實又少知妻少知之次知京新在節日也之方

美母少知

妻 少知 檢田少知亦從 出江在江邊同檢田也

何方... 出生... 年月日... 知
 養育... 年月日... 知... 市... 三... 子
 ... 身... 新... 以... 以... 及
 ... 年... 月... 日... 知... 通... 身
 ... 年... 月... 日... 知... 氣... 身... 以... 知
 ... 年... 月... 日... 知... 氣... 身... 以... 知
 ... 年... 月... 日... 知... 氣... 身... 以... 知
 ... 年... 月... 日... 知... 氣... 身... 以... 知
 ... 年... 月... 日... 知... 氣... 身... 以... 知
 ... 年... 月... 日... 知... 氣... 身... 以... 知

同... 年... 八月... 廿... 日... 知... 年... 知... 同... 年
 ... 知... 年... 月... 日... 知... 年... 知... 同... 年

三春

張新... 張新...

張新... 張新...

張新... 張新...

養良母

張新... 張新...

實父

張新... 張新...

實母

張新... 張新...

素

張新... 張新...

年... 月... 日... 知... 年... 月... 日... 知...

歲... 年... 月... 日... 知... 年... 月... 日... 知... 年... 月... 日... 知...

新正の春実乃之治と心養在子位後所
 延宝九年乙未二月廿五日酉時死仕
 同年月廿七日辰時又治或は少重少重治は入
 延宝九年丙午月廿七日申時命終
 其弟一列少重後者之居治後之弟
 元禄十五年五月廿七日申時命終
 山名物治少重治少重
 宝永五年二月廿七日申時命終
 其弟一列少重治少重

皇作

佐宗三右衛門

治新五年

母

全長三右衛門三浦女

貞享二年三月廿七日申時命終
 其弟一列少重治少重

系

新正の年世

母在自

正母

名原希 招申之弟

新正母

養母

全長三右衛門三浦女

実父 三浦三右衛門
 實母 有田三右衛門
 有田三右衛門
 有田三右衛門

三書

貞享四年二月廿五日丙午出生

常憲之所代室永二成年月日身是春臣文室皇子之

也若其身臣牙之治天以新君也心好必及子

仕及臣牙親

同享四年四月廿七日通言臣牙之治天也

治天二好也若身是皇子親也

同享五年二月廿五日丙午

同享四年四月廿七日治天二好也若身是皇子親也

攝政也繼入于後大治也若身是皇子親也

享保元甲申年十二月廿五日丙午出生

治天二好也若身是皇子親也

少身小童信入也治天二好也若身是皇子親也

同四年八月二日任丹室皇子親也

同五年七月洋領也若身是皇子親也

同六年七月洋領也若身是皇子親也

十四年余也若身是皇子親也

願之通也若身是皇子親也

伊丹室皇子親也若身是皇子親也

何年芳許成母願仕成年八月廿九日
 同十七年二月十九日渡井山寺以死藏于後
 行中因訪古亦死之節
 延享四年十月二十日隱居仕成及子年
 同五年四月二十日彌之通院地也
 此三年上元色以候許成以仕成
 實延二年六月廿九日二十四歲在官死
 享年四十九歲院及孫

三幸

常乃之戀

水

河津島門

冊

妻

北村全吉

北村全吉

享保九年三月十日卒於此也

博信公之孫也五十年四月二十日父新官也

彌之通院地也

此年五月將小童許成行中因訪古亦死

實延四年二月十日卒

博信見仕其後全田也

室曆九年八月十八日卒

此年八月十日卒

祖后入在繼之能二條大友及西皮在若書知
高木中少相之部

明和二年三月廿四日西丸中納人若書
此後有方松平因海島及此作後年若書
組成同之氏年二月廿日新若書若書若書
松平右近將監及此後若書若書若書若書
安永三年五月廿七日若書若書若書若書
同和申年四月廿九日
御社若書若書若書若書若書若書若書若書
金平及洋國住也

同六月年六月廿五日天野河津中納成

天明元年九月廿四日因銀五兩若書若書

通由之若書若書若書若書若書若書若書

寬政五年十二月二十日松平少中納成若書

若書若書若書若書若書若書若書若書若書

若書若書若書若書若書若書若書若書若書

若書若書若書

同六年十二月廿七日若書若書若書若書

神戶飯若書若書若書若書若書若書若書

若書若書若書若書若書若書若書若書若書

忠國

水野守之信

信多之助

母 幸女

延享四年二月十六日小倉藩世當主正室
赤丸水野守之信正室幸女子成

三壽

始正敬

昭重信

市右衛門

養母

北村幸右衛門重信女

養父

北村重信

信子正信正重信男

養母 幸女

村松正信信成屋女

養父 村松重信重信女

妻 新田若江

信隆山右衛門元之丞

養父 大井七郎重信一妻女

明和二年四月晦日重信出生

後明和御代私儀養父大井重信正室重信子正信

此女正信正信子正信

天明六年二月十日新田若江正室重信

正信正信子正信

同年三月十六日彌子正信正信子正信

正信正信正信正信

天明七年四月十日正信正信正信正信

宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年...
宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年...
宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年...
宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年...
宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年...
宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年...

宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年...
宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年...
宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年...
宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年...
宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年...

某

乃之德

甲世

母

宣統二年七月

宣統二年七月

女子	丹	早世
女子	丹	早世
女子	丹	早世

母不肖

高書儀 中國梅序 生國氏前

宣政元元年

洋行屋敷小石川白土屋敷七郎所共方
申以武平同慶寺河仙洞附形律
因務与屋敷内儀此任先任

多田市在信門免 辛酉歲

未三月廿七
之平小庵後与生

系譜

清和源氏
七百餘年書日増田之系

仁 係

合妻
之平小庵後与生
多田三千一序

清和源氏

多田

多田滿仲未流先祖在遠野病苦言

慶忠時亦據津國河方とて必家系

吾任仕在源氏と多田杯

幕之紋

源之杜母

源之紋

凡之月乃字

源之紋

之ッ巴

三言慶忠之代之孫所為高之輕恒之男

攻身

八之月

二之月

母之知

妻之知

辛卯日之知江ノ出生

大御公御代又所為高之輕恒也性温也初年也

宣年九月八日之宣年之初分

御目見仕也

同年月日之知新紀本之從也其出天孫

三言之傍也其入也據傳方捨人據傳也

承應元年春二月八日高切末百儀平下
延享七年八月廿九日拂方滿人此書
元禄元年正月廿九日此是了百儀平下
延享七年正月廿九日此是了百儀平下
元禄元年正月廿九日此是了百儀平下
入部 延享七年正月廿九日此是了百儀平下
宝永六年二月二十日之取極儀平下
初元年正月廿九日此是了百儀平下
寶永六年正月廿九日此是了百儀平下

改稱

高性院日持

母家

書 南都大徳寺飛鳥寺後院

寛文十戌年八月廿九日此是了百儀平下

自享元年正月廿九日此是了百儀平下

常定元年正月廿九日此是了百儀平下

元禄六年正月廿九日此是了百儀平下

延享七年正月廿九日此是了百儀平下

元禄元年正月廿九日此是了百儀平下

宝永六年正月廿九日此是了百儀平下

父政自高死之... 子國子政... 寶永七年八月... 小善信入... 三徳元和年十月... 高死... 院口信

依利

母

後... 信女

元保七年八月... 出生

寶永二年九月朔... 常...

三徳元和年三月十九日... 同五年六月十九日... 同七年十月十八日... 同十九日... 院...

延名四百優之威也後科在也
 元文二年年七月十日
 月光院御出度書之
 以後科五百優常
 宝曆二年九月十日
 月光院御出度書之
 同三年十月十日
 高元寺代
 昌當

冊在
 元文二年六月二十日
 高元寺代

政又

冊在
 高元寺代

元文二年三月十日
 寶曆二年三月十日
 高元寺代

隱居書房中 以後書法從其父 乃就
 子就成
 年月日不知許時代 江戶市ヶ谷大冨町
 左衛門尉 河原田仕り 中成之助
 明和四年十一月十日 母死 在安永中 子
 の差上 与 松平右近 乃 皇孫 乃 後 後 乃 子
 乃 死 社名 乃 皇孫 乃 後 地 乃 乃 乃 乃 乃
 同 丑 子 年 二 月 十 日 昔 元 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

天明二年二月十日 水井監物 乃 乃 乃
 願之通 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 同 年 丑 月 中 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 利 發 仕 性 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

抄子

抄子

小室
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

天明五年二月十日 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

政明

廣正

二十

丹毒

書丹毒丹羽市在遠東

寶曆二年四月十日

天明二年三月廿九日

天明二年三月廿九日

天明二年三月廿九日

天明二年三月廿九日

天明二年三月廿九日

中野組

天明二年三月廿九日

天明二年三月廿九日

天明二年三月廿九日

天明二年三月廿九日

天明二年三月廿九日

天明二年三月廿九日

天明二年三月廿九日

女子

丹毒

政房 苗尾

母石角

寛政五年五月廿七日

政氏 吉平

母石角

丹羽市左衛門

政暉 吉平

母石角

政亮 吉平

母石角

政子 母石角

政子 母石角

石之通 浅江

高武 石角 生國氏藏

洋願 石角 四ノ首 公保 在庄 及上 在角

三十七

寛政工乙未年二月 多田 平 高 昭

大源

未三月申
三ノ木三ノ木出

系後

法非源氏
古百之谷書
多田新八郎

多田新八郎

清和源氏

多用

先祖多用流過与昌隆天皇國之
右住仕家若多用上称

幕之收

一葉茶角二斗生

幕之收

凡之内茶葉二斗生

幕之收

茶車

安田河内守昌隆天皇
多用之右住仕家若多用
昌隆

冊

尾行源氏

柳氏子臣昌隆

書

以領ノ

昌隆天皇

寛永八年八月廿八日

百治二年八月廿八日

清和源氏

寛文元年八月廿八日

同年二月廿八日

同四年二月廿八日

式百儀

延宝五年正月二十一日出陸交首之次

以舟也

貞享二年二月九日小童法之次

以姓名少知

元禄四年二月十二日之次一長死仕也

官中跡坊守中五處虎菜中

法名見覺院了智

昌春

若七之節

母

山内

後部八節

三全在信國信重女

妻

寛文五年江戸生

横田於河原

元禄四年七月十五日父昌春、母

下玄小童法之次

同年三月小童法之次

元禄十六年三月四日之次八高死仕

兼地同年号智身上流左衛門

昌春

母

母

妻

宝永四亥年三月廿二日小重信松平
信茂 久三少

母 家母

元禄二一年年大書中多洋示少
但本亦用信之卷中子也

女子 早世

母 家母

昌記 海公布

母 家母

元禄十丑年八月江生
横田於 涉殿

元禄二一未年七月父昌春江成
弟也 弟也 弟也 弟也 弟也
父昭云西乃江 弟也 弟也 弟也 弟也

享保二一壬午二月有建親年叙布
弟也 弟也 弟也 弟也 弟也

宝曆九年二月五日高元帝元字之章他
同系江右右院首之章

昌序 久心帝

又 册 西御是 隆平之西御元福也

元昌元卷之五

昌序 卷之五 新平 又新心帝

美母 卷之五

美母 卷之五 隆平三所四所元福也

美母 卷之五 隆平三所四所元福也

元祥十五年二月十日生

右昌序卷之五隆平元昌元卷之五

元祥二十一年二月十日卷之五

元祥二十一年二月十日卷之五

元祥二十一年二月十日卷之五

元祥二十一年二月十日卷之五

元祥二十一年二月十日卷之五

元祥二十一年二月十日卷之五

元祥二十一年二月十日卷之五

元祥二十一年二月十日卷之五

永平五年二月十日
明和二年二月十日
之令八高死号古保院通元

昌圖

岩屋寺

後部寺

母

妻

後妻

享保十九年三月十日
明和二年三月十日
長部院住

西月寺

子死

中月寺

小妻

松尾寺

永平五年二月十日
昌圖序書死仕

明和六年二月十日
昌圖序書死仕

享保十九年三月十日
昌圖序書死仕

永平五年

上院

永平五年二月十日
昌圖序書死仕

同年五月九日、親之通、御身降月、永
死之成
同五年四月、亦云、親之通、降、始、御身
同年七月、八日、病死、之、始、云、永、代、同、年
法、在、美、相、院、道、也

正徳

平三郎

西尾、清、徳、院

山、権、之、外、女

明和七年、年、上、月、亦、有、太、山、者、御、由

初、初、也、從、中、根、修、之、也、云、云、之、卷、之、子、也、云、云

中子

小、善、信、之、中、御、身、也
秋、同、之、也、云、云、也、云、云

女子

母

弟、同

小、善、信、之、中、御、身、也

多、田、之、外、御、身、也

母

弟、同

昌宗

若、孫、之、也

正、徳、之、也

母

小、善、信、之、也

世、田、之、外、御、身、也

繼、母

小、善、信、之、中、御、身、也

世、田、之、外、御、身、也

妻

西、尾、之、外、御、身、也

一、場、之、外、御、身、也

明和七年、年、上、月、亦、有、太、山、者、御、由

至、明、七、年、七、月、初、也、云、云

河内見仕差用之者又就之也
 寛政五年四月十日又昌國朝之通
 後世之作者亦多矣其下亦多有佳作
 坪内或親之死也
 同七年二月十日所用之者其死也
 大正五年四月十日所用之者其死也
 同十年二月十日所用之者其死也
 拾取之者
 同十年七月十日所用之者其死也
 很珍致活順

在書庫

享保十九年二月十八日洋順仕也
 寛政七年二月十日所用之者其死也

昌休

母

捷治所

子死之也

所用活字書之也

女子

母

早世

弟同

女子

母

早世

弟同

系

冊

九冊

西元中ノ山林ノ信託

一陽ノ後ノ書ノ改訂也

右ノ通シテ法ルニ上

言ニ百後

中國ノ後

在ノ後

西ノ方ニ在ノ後
大和ノ上ノ也

寛政ノ末年ノ月

多田新八郎ノ馬

三十四冊

未三月
後也ノ事也

信託ノ氏

七百ノ信託也

系譜

大陳

少重信但海ノ事也

多田新八郎

淨性
多田

德三收
一三輝
九百揚
九百揚
上羽蝶

三石玉住人多田淨四郎多田多田

多田多田

冊
林八重女

神着言於之次言名出賜渡米四石沖身身後

國之京大坂兩津所其津信或公難前言津後元

石五之京之米七在年六月廿九

葉淡系杉光爾寺言法中庵本言言乃津四石土

秀心
多田此在處

母林氏女
毒之場之在處女

寬永一五年十月廿四日自乞敵多自

其後就名出所多身之後

國京之三年在拜別浪十教入長坂之公會組

元禄二年年八月廿九

其年同寺言言長流縁言言在土

果
多田此在處

其年言言印林是名邊書

其年言言改情所多言言在土

女 山部之 之 田川 平 信 本
多田庄屋

養母馬島氏女

養父入子 養母 養父 仰 承 是 在 後 二 官
養母 多田庄屋 養父 山部

養父 山部 養母 山部 氏 女

寬文八年二月廿五日生

天和二年春

元禄二年三月廿五日 入 養 後 養 父 山部

元禄五年甲午二月廿五日 死 幼 弟 定

宝永元年甲午八月廿五日 養 母 山部 氏 女 同 母 野 田

元禄元年甲午八月廿五日 養 父 山部 氏 女 同 母 野 田

宝永二年二月廿五日 養 父 山部 氏 女 同 母 野 田

元禄五年甲午二月廿五日 養 父 山部 氏 女 同 母 野 田

宝永元年甲午八月廿五日 養 母 山部 氏 女 同 母 野 田

元禄元年甲午八月廿五日 養 父 山部 氏 女 同 母 野 田

養父 山部 氏 女 同 母 野 田

秀一

加名 左 衛 門

母 山部 氏 女 養 父 山部 氏 女

元禄元年甲午七月廿五日 生 山部

宝永元年甲午二月廿五日 自 山部 氏 女 同 母 野 田

元禄元年甲午八月廿五日 自 山部 氏 女 同 母 野 田

延享二年三月信濃被後信濃之國巡幸御用
宝曆七年三月上御所養老仍
明和二年三月庚午未相初少付檢別し以心
勅為而早儀也
同年十月廿九日死
葬因寺号林給院家号五條有達居士

秀房 多田形之助

母在女 妻在女

元享四年二月初生
明和二年三月廿七日入井上修院院
安永九年四月廿八日死四十二
葬因寺号皇皇院通号達昭居士
印名金堂 多田形之助子

秀房

久子房

廿

秀房

信房 信房

養母在女

喜之妻一之男

喜之母在女

母在女

延享五年三月廿五日生
安永九年七月廿日自今永井澄物子死
安永九年三月廿四日入因田女房子死

在之通 沙流山以上

高麗系四石本國之河生國成務中折封了二百

宣政上未年八月

多田尾原直

五

未年八月

未年八月
之由伊原直

系譜

未年八月

二百拾書〇地田尾原直

尺

友

御上付

之由伊原直

多田尾原直

多所免化信光正

内通之改定

私系僅一或許海國之信信者信光正
古上Pの如私奉古之保外如之海國者
Pの身今之信書中の如許之由

卷之見 多所免化信光正

一當時形他任同家信光正信光正

一私系僅一或許海國之信信者信光正
古上Pの如私奉古之保外如之海國者
Pの身今之信書中の如許之由

一私系僅一或許海國之信信者信光正
古上Pの如私奉古之保外如之海國者
Pの身今之信書中の如許之由

右之通之信光正

信光正

三月

多所免化信光正

後系信 多所免化信光正

先祖多所免化信光正
信樂屋多所免化信光正
信光正多所免化信光正

信光正 杜丹之元

信光正 向杜丹

信光正 同

信光正 美杜丹

近信光正多所免化信光正
信光正多所免化信光正

大藏冠謙之世氏近侍大國基道以
信樂之流柄於足利男出生是則多
大藏河光之子稱光秀長男為所
光氏之子多病也光朝之子和泉
光重之子河内守光辰之子河内
光俊之子常陸大國知長子

田山集傳

入道前

光朝

母

池田丹波守教正女

妻

伊勢守教正女

大永之乙未年八月廿九日信樂
初生此女始仕足利家後屬織田
信長幕下伊勢國美濃山崎國和
赤江近江國田上信樂少子孫合
二方石條國知仕以信樂少川
輝信
天正十年年二月二日信長日向光秀
逆意之別因月二日
權得樣多存尾領江別信樂少川自入
赤城内自入及言上

田戸ノ御方ニテ有リ申付然レテ御人致申
城内ノ入光細城下ノ儒社觀音寺
此後御上高八幡宮御方ニテ御方
納也ニテ光圓後接レテ北邊橋家
小像雲南ノ上申致上ノ水ニ接テ所感悦
新ノ掛 御務ニテ接 所信御方ニテ
伊賀鐵道通第御業内ノ上伊賀國
此ノ村通御信仕水井伊賀郡
上使ニテ御務
上意ニテ御務ニテ申付申付申付及

在傳ノ傳信書山中長官書(去留列白)子
御船場通御信仕水井伊賀郡
伊賀郡通御信仕水井伊賀郡
伊賀郡通御信仕水井伊賀郡
八月十日 上使ニテ御務ニテ申付申付申付及
御島書(去留列白)子
同三甲申年 長官子御信仕水井伊賀郡
同年三月申年 長官子御信仕水井伊賀郡
御利為(去留列白)子

上山体之類は内角 右内所履
 兼 子部領上原山利(能波)も其
 其右も知仁(保)は其の左
 以蔵(因)田中(因)田上(大)石(大)也
 其も中(右)石(左)也
 堂(石)元(石)水(石)元(石)也
 以(石)元(石)元(石)也

天正五年 家康御書判
 三月廿六日

各所元田中領所及

天正五年是時、為政務及新中城、
 所政は信守光綱方は忍、その御用
 小中は信守光綱方は忍、その御用
 信守光綱方は忍、その御用
 務及信守光綱方は忍、その御用
 其も中(右)石(左)也
 堂(石)元(石)水(石)元(石)也
 以(石)元(石)元(石)也
 御書判 天正五年三月廿六日

在系之遺高身身世常作身防左程以
家室其後仕隱世仕利好者適宜之
改右仕也
慶長十四丁酉年二月四日卒七十九
江列山川大光寺住持
号 光照院通号

光冬

号 金吾

氏 康平

母

伊勢守部守國守母

光園一男也其母九高身身防左程以
任右仕之後一室居人任任國外之村
氏五高身光雅也其母之八高身之肉
十五高身今分也
慶長五年寅冬東海四傳之良近江國
御藏入之方清郎也其在天下清代之長
相和 三年四月五日高元九
丁亥之江列 任樂多分所尾洋禪寺
系 号 之原院 号 堂 号 清代
其長身所尾四傳也其母之八高身之肉

光雅

坂本之信

久八神

母

同光氏

妻

源師洋白少納言長孫女

治平元年丙午年丙申年
五月十五午年六月丙午年
信業少納言

後醍醐天皇 入海之山神
御患之臣 上行之山 御患之臣
智列白子 於海之山 智列白子
河村為平 之他傳之世

信業少納言 信業少納言
其四の領地 河村為平 今不存
信業少納言

一 山城國河原山科首領之受
一 西尾之管余能事
一 馬場之事

右順 智列白子 上之智列白子
智列白子 河原山科 今不存
智列白子 河原山科 今不存
智列白子 河原山科 今不存

王以手等... 御用... 可存仕... 在宗

二月廿四日... 御用... 可存仕... 在宗

王後... 御用... 可存仕... 在宗

二月廿四日... 御用... 可存仕... 在宗

于後久公以之改本位樂行以爲在在可也
同十九年卯年四月廿五日信樂寺之千八百名
之り至 所由下以或仁心

石字

近江國甲斐郡佐野内
千八百名半 全在時之証
の領云々也
天守九
四月廿五日
所由下
多所久公之

奉号月日之知在之云八百名内是左京之
進光寺千五百名分知此分布了或中
百名之り也
慶長五年卯年 全津西原之江戶
石字之知在之云八百名内是左京之
今右之り也 在左京之西原之江戶
同并信樂寺之り也 忠致仕等 同年
作樂園上野城後津願寺仕折生
世馬之り也 石字之知
命彼城之り也 信樂寺之り也 別

古坂より井俣多記抄傳 卷若此
河原口迄古坂時 世傳之忠臣無幾可尋
之 是れ也 而勢一 業 上意
河原口至河原口 河原口 河原口 河原口
將た古坂光重古坂連河原口迄
河原口 河原口 河原口 河原口
河原口 河原口 河原口 河原口
河原口 河原口 河原口 河原口

河原口 河原口 河原口 河原口
河原口 河原口 河原口 河原口
河原口 河原口 河原口 河原口
河原口 河原口 河原口 河原口

河原口 河原口 河原口 河原口
河原口 河原口 河原口 河原口
河原口 河原口 河原口 河原口
河原口 河原口 河原口 河原口

河原口 河原口 河原口 河原口
河原口 河原口 河原口 河原口
河原口 河原口 河原口 河原口
河原口 河原口 河原口 河原口

權理極... 有... 天... 年六月

... 土地... 年... 年

... 山... 山... 山

... 神... 神... 神

... 年... 年... 年

... 所... 所... 所

... 中... 中... 中

... 同... 同... 同

... 年... 年... 年

... 年... 年... 年

... 手... 手... 手

... 中... 中... 中

... 之... 之... 之

... 相... 相... 相

... 御... 御... 御

... 天... 天... 天

... 和... 和... 和

... の... の... の

... 出... 出... 出

... 所... 所... 所

河内界身可身類根之序注之字及
位樂占羅屏
宣永丁酉五年二月十日死於一
江列位樂山川太光寺山葬
号極月院淨賢

光彦

山友直信
光彦

母同光

年正月日山友直信國五城之山
其弟長政長子山友直信山友直信
光國之子山友直信山友直信

權源保 山友直信山友直信

相執高直山友直信

正保四丁亥年八月十八日死而後

蓋時西乃沖光院若西友直信山友直信

友直信山友直信山友直信

采

山友直信 甲世

母 日友

采

山友直信

後多所院治信

母 日友

山友直信山友直信山友直信山友直信
山友直信山友直信山友直信山友直信

某

多原尾澤信房 母某のり
左之右之... 信房... 某...

女子

丹 花岡新
文保辛卯年三月... 新山... 自言...

光重

丹

書

淡野信守... 長... 爲... 中... 紀... 某... 女...
信守... 淡野... 信守... 長... 爲... 中... 紀... 某... 女...
信守... 淡野... 信守... 長... 爲... 中... 紀... 某... 女...

四葉

古法... 信守... 可... 信... 上... 意... 信... 化... 中...
信守... 淡野... 信守... 可... 信... 上... 意... 信... 化... 中...
信守... 淡野... 信守... 可... 信... 上... 意... 信... 化... 中...

宣和十八年乙未六月十日... 信守... 某...

此實子之遺蹟也新地仕如巨室名重
高家牧之成以所自正高相年修之也
御所治中上如力五年一月五日卯
同記記如之弟御下御如親忠高上
御國以口言是念之通或中之言心新
所傷定之念也如之相年修之也
此後之交代亦命如之御下
長息二之己年七月十九日御下
友原高門書方信也信也如之御下
了信二之己年五月十八日如之年
知

中ノ西ノ条ノ大卷ノ事ノ其
号 延徳院ノ御
后門

光世

母 國号

慶長十七年二月二十日死
号 宝徳院ノ御

光房

母 國号

内記
以光世之妻如子之成

光房

内記

養父

多摩尾左衛門光重

養母

鳥丸中納言某女

實父

多摩尾久少師光雅

實母

孫野浮正少源長政女

江別位樂多出生

寛永年中江別位光重頼通養

子云 伊月同十八年己未六月十日在年

少知江別位川大光重年

号源左衛門某女

右内記某子云云在江別位某女

江別位某女云云在江別位某女

光重

始作伊月

後在信

養母

鳥丸中納言某女

養父

山江左衛門光重某女

實母

山口是助某女

養母

山江左衛門某女

寛永八年未年八月廿九日江別位樂

某女云云在江別位某女

某女云云在江別位某女

光室再卷子二行

万治二己亥年二月廿日表臣文良之情
以武部守左兵部右少将左近将后
世系五文时文部卿合左近将左近将
位坐纒乃於二献上之御飛之
此後之清和院乃裁之任公左近将工役在
仕中少近男子之世世リケ屋次之在
二家方之少多御作色四御之居候表之
う之御向任仕也
延宝八庚申年五月八日

藏有院柳 沖地長 卷子經 見合堂角

元德勝光武急高 舟 在四町之坊候表之
本願堂同年八月廿八日死年七十未記
之卷子 宗仲 以武部新地川口列位坐
江田村源之守也
号 系之院下也

抄子

冊

通山

在多少之鳥居堂
通山 通山 通山

光之

始系也

後入也

実文

実母

書

山口市 徳光成男

徳光成男

夜田高利 徳成信也

山口市 徳光成男

三小 徳成信也

寛文二丁子年 正月朔 京師 徳成

延宝八庚申年八月廿八日 徳成信也

本宗 山口市 徳成信也

実方 山口市 徳成信也

在女 山口市 徳成信也

同年十一月廿七日 徳成信也

養育院 徳成信也

各 徳成信也

天和二丁子年 二月廿九日 徳成信也

徳成信也

徳成信也

徳成信也

徳成信也

徳成信也

徳成信也

徳成信也

久保公家多殿... 河内國月古新志
 洋領河内院... 武元中上之御
 光成... 南臨... 改... 院...
 正... 元... 年... 二月... 中...
 四... 元... 年... 九月... 死...
 西... 年... 九月... 死...
 号... 院... 性...

光高

乃名
 母
 二... 院... 性...

貞享二年七月... 知... 所... 生
 元禄十丁丑年二月十九日... 死
 院... 院... 院...

女子
 母... 院...

女子
 母... 院...

女子
 母... 院...

女子
 母... 院...

女子
 母... 院...

母... 院...

妻

絶妻

寛永七原三年三月十日江戸本所生
方子保九甲辰年

有徳院孫山初月

清国元住山因年丁

八月廿九日書付月次仕成願之通
此作付

元文三其年三月四日又改式之由
也又時齊合之候月七日書付
另代不承意書付控申上云

寄合 桂村或之於弟女

寛永七原三年三月十日江戸本所生
方子保九甲辰年

延享二其年十一月十日西丸書付候由
御書入之候書付候由入致之信書付候由

宝曆七其年三月十日書付候由之通
小量書付候由 御書付候由之通

久世年九月十日書付候由之通
由永元其年二月十日書付候由之通

御書付候由之通 御書付候由之通
御書付候由之通 御書付候由之通

天明之其年八月十日書付候由之通
御書付候由之通 御書付候由之通

法善院二方

某

卷三

目次

某

目次

目次

目次

目次

光復

拾六

早世

目次

目次

桂村或親某女

元文二丁巳年十二月廿二日江戸市所
別生同丁巳年十二月廿九日江戸市所
澤川海慶院葬 号幼光

光復

拾六

早世

某

早世

多羅尾海慶院光復

元文二丁巳年十二月九日同姓海慶院葬
子三女一 宝曆一丁巳年二月十二日元
号教授院利合 弟同寺葬

某

早世

某

早世

元文七丁巳年正月廿二日

光正

某

早世

某

早世

家母

小室信子保子行也

野村信子和共娘也

延享二年三月十日江戸に生
二玉傳二年三月十日江戸に生
其年三月十日江戸に生

明治九年三月十日又類通陸奥
信子多智より至り其時小室信子
年及中より死す水井信子死す
西永中甲申三月十日清中伊能
入り信子信子信子信子信子
二月十日類通信子信子信子

三月十日安及信子信子信子信子
信子信子信子信子信子信子

天保十一年三月十日信子信子信子
信子信子信子信子信子信子

慶長五年三月十日信子信子信子
信子信子信子信子信子信子
寛文二年三月十日信子信子信子
信子信子信子信子信子信子
信子信子信子信子信子信子

女子

丹波女子

女子

伴三信少子

光園

姫大女子

市之志

母

明和九年壬辰年三月十四日生

多摩尾内由光久女

寛政二庚戌年二月廿七日生

為原除江

光菴

若利

女子

美名母

多摩尾内由光久女

美文

所書信

寛政二庚戌年八月十六日誕生

女子

母

新井美名子

女子

多摩尾内由光久女

女子

母

羊世

在江戶

女子

母

在江戶

女子

母

在江戶

美名母

美名母

在江戶

新村多信前子

三葉舟

天明元三年五月十日

仰舟月十日

寛政二年戊午四月廿九日

舟之廻

之書名

寛政十二年五月

光正

未三月
海古

系譜

七
明和五

九百番。増田

多羅尾四

多羅尾

田

舟

舟

多羅尾

光正

多羅尾

多羅尾

多羅尾

多羅尾

多羅尾

多羅尾

藤原姓

多羅尾

先祖多羅尾新造門元近江國守
任仕在在名羅尾上孫之孫而後

第之紋

牡丹

第之紋

右圓

第之紋

凡多子

元法

新造

丹子知

書子知

年芳月日知近江守出生

神名知是乃以法任仕守公下守也後知

妻個之成事知

病死年月日年知是之田基河神是年

葬年知釋海教

元知

新造

丹子知

書子知

年月日知江戶生

台礎云御代

東福門院御代於東院云江戶御代云

丁上皇御代御代御代御代御代御代

高死仕作年月日年月日年月日年月日

号歌茶茶

元信

母 子知

七郎右衛門

年月日知江戶生

天樹院御代 御代御代御代御代御代

二戌年

後陽院御代 御代御代

万治三年十月年月日知高死茶茶

号明鏡院御代

七郎右衛門

道政

母 子知

書子知

年月日知江戶生

法福院御由御極南院...
七年...
寛文九年二月...
宝永元年...
文昭院様西九...
御由...
享保五年四月...
行...
同八年二月...
羊...
道永...
母...
妻...
年月...
有...
表...
同...
同...

法福院御由御極南院...
七年...
寛文九年二月...
宝永元年...
文昭院様西九...
御由...
享保五年四月...
行...
同八年二月...
羊...
道永...
母...
妻...
年月...
有...
表...
同...
同...

法福院御由御極南院...
七年...
寛文九年二月...
宝永元年...
文昭院様西九...
御由...
享保五年四月...
行...
同八年二月...
羊...
道永...
母...
妻...
年月...
有...
表...
同...
同...

法福院御由御極南院...
七年...
寛文九年二月...
宝永元年...
文昭院様西九...
御由...
享保五年四月...
行...
同八年二月...
羊...
道永...
母...
妻...
年月...
有...
表...
同...
同...

法福院御由御極南院...
七年...
寛文九年二月...
宝永元年...
文昭院様西九...
御由...
享保五年四月...
行...
同八年二月...
羊...
道永...
母...
妻...
年月...
有...
表...
同...
同...

法福院御由御極南院...
七年...
寛文九年二月...
宝永元年...
文昭院様西九...
御由...
享保五年四月...
行...
同八年二月...
羊...
道永...
母...
妻...
年月...
有...
表...
同...
同...

法福院御由御極南院...
七年...
寛文九年二月...
宝永元年...
文昭院様西九...
御由...
享保五年四月...
行...
同八年二月...
羊...
道永...
母...
妻...
年月...
有...
表...
同...
同...

法福院御由御極南院...
七年...
寛文九年二月...
宝永元年...
文昭院様西九...
御由...
享保五年四月...
行...
同八年二月...
羊...
道永...
母...
妻...
年月...
有...
表...
同...
同...

法福院御由御極南院...
七年...
寛文九年二月...
宝永元年...
文昭院様西九...
御由...
享保五年四月...
行...
同八年二月...
羊...
道永...
母...
妻...
年月...
有...
表...
同...
同...

後明院御出位所出處所人等仰付也

同十八年十月 河越三平同年二月

表出處所人等仰付也

天英院御出位所出處所人等仰付也

元文六年二月 表出處所人等仰付也

河越三平同年二月

至心院御出位所出處所人等仰付也

延享二年七月 表出處所人等仰付也

河越三平同年二月

前考

河越三平

表出處所人等仰付也

河越三平同年二月

表出處所人等仰付也

河越三平同年二月

有德乙御出位所出處所人等仰付也

延享二年七月 表出處所人等仰付也

河越三平同年二月

同十八年十月 表出處所人等仰付也

同十九年十一月 表出處所人等仰付也

河越三平同年二月

宣統二年三月十四日袁世凱所設政府
延定二月九年九月十八日袁良又陳勳
賞延元九年十月十九日袁世凱所經
此是商女信儀由是技巧中人持持市
儀只人持持高
明和五子年七月十四日袁世凱所
善之道
科而儀
冲情任
而扱

天明六年五月廿九日西元
此種神
七年知什

因七未年三月十四日
洋領
號
應發
卷子

母子
母在女
源
道

通廣
母
多羅尾源印道

書 小善信 後田河津市安信女

元文五年八月廿五日 出生

後田河津市安信 八月十日 又原庄 後田河津市

小善信 後田河津市 山崎 子 死成

四年九月廿五日 但馬市 子 死成

四年九月廿五日 但馬市 九音 死成 死成 死成

号 新 二 三

中子 小善信 後田河津市 安信女

母 右田

道信 氏 弟

母 後田河津市 安信女

安永二年十一月廿五日 出生

天明八年十一月廿五日 又原庄 後田河津市

小善信 後田河津市 但馬市 子 死成 死成 死成

安永八年九月廿五日 但馬市 子 死成

道安 改 子 弟

母 後田河津市 安信女

右之通法 後田河津市 安信女

高木存儀其人技將本國近江

深領屋補少將九山所

享安上乙未年十月

多羅尾茂之師了

五

二十六歲

未三月廿五日

法年

六百五之妻。增田多子也

天

あり
多羅尾

多羅尾師

多氏在長法眼

先祖書

丹波姓

金保

後多氣改

家之改

向梅

聖之改

共之相

善之改

底紅向梅

丹波國多田郡主藤原之子俊雅ヨリ

十八代由兼親存系之末弟藤原ヨリ者

平道ヨリ科ヨリ世々顯レ右兼藤原ヨリ

十代ノ源典孝以稱元山守國督之成也

子元兼ヨリ天長七別ノ元兼ノ家ヨリ之也

後藤原師清ト稱テ金保ノ子ニ改ム

一 元祖 本國山崎

母伴方知

金保 安永元 素束 知右子知

後藤原師清代慶長拾八年 於京於新 百出

出知系百後拾人持守方知

台徳後藤

大徳後藤 師代大ニ由新道原也知

台徳後藤

宗原院候 女院候 吉成院候 内藤

差上中ノ寛永元子七月朔日午許宗興

所定仰ヨリ今所書付テ今所定仰

寛元永九申十月九日御用付方後藤

後清和天皇御宇至今之不振仕也
慶安元年十一月十日有死之云云此土車也
其 号 曰 怡
右元春奉基而改家仕仕信基所云
其 号 曰 怡

延享四年年十束御漢年御親皇云云
其 号 曰 怡

一 元春奉基 号 曰 怡

一 門 怡 号 曰 怡

一 二 仲 目 少 國 号 曰 怡
人 主 保 道 刻 元 尚

母 系 女

大御後藤原元春死後其子元月果 振書
其 号 曰 怡

大御後藤原元春死後其子元月果 振書
其 号 曰 怡

千代 号 曰 怡

其 号 曰 怡

其 号 曰 怡

延享四年年十一月十日有死之云云

豊後縣上中里村平保山藏官守平保山
号 保壽院刻 院通可

右 豊後之 院 宣 永 年 申 平 保 山 神 之

清 成 之 院 元 尚 上 意 方 之 院 改 不 仕 院

宣 永 年 申 之 院 宣 永 年 申 之 院

一 元 尚 妻

御 上 院 者 酒 井 院 宣 永 年 申 之 院
一 尾 院 院 通 尚 女

院 在 仕 院 之 院

一 元 尚 妻 子 越 順

院 通 尚 女

一 同 次 男

金 保 子 院 通 尚 女

一 同 妙 子

院 通 尚 女 院 通 尚 女 院 通 尚 女

一 同 妙 子

院 通 尚 女

一 元 尚 妻 子 越 順

院 通 尚 女 院 通 尚 女 院 通 尚 女

一 同 妙 子

院 通 尚 女 院 通 尚 女 院 通 尚 女

一 同 妙 子

院 通 尚 女 院 通 尚 女 院 通 尚 女

一 同 妙 子

院 通 尚 女 院 通 尚 女 院 通 尚 女

院 通 尚 女 院 通 尚 女 院 通 尚 女

院 通 尚 女 院 通 尚 女 院 通 尚 女

院 通 尚 女

院 通 尚 女 院 通 尚 女 院 通 尚 女

院 通 尚 女 院 通 尚 女 院 通 尚 女

院 通 尚 女

院 通 尚 女 院 通 尚 女 院 通 尚 女

元禄二年九月十九日小菅信全
仍于肉屋上野町与死成同四年
十月十八日元禄二年少成官守
考依松院学芸元禄

一元禄妻 松平部右兵卫尉永田源左卫门春吉

松平源左卫门春吉
源左卫门春吉之妻松平源左卫门春吉
源左卫门春吉之妻松平源左卫门春吉
源左卫门春吉之妻松平源左卫门春吉

元禄二年九月十九日小菅信全
仍于肉屋上野町与死成同四年
十月十八日元禄二年少成官守
考依松院学芸元禄

一元禄妻 松平部右兵卫尉永田源左卫门春吉

同女子阿菊氏 小菅信全之妻

一元禄妻 松平部右兵卫尉永田源左卫门春吉
同女子阿菊氏 小菅信全之妻

常憲法條法 元祿四年三月廿四日
由切米百袋拾人持得之至其父折少至
其後肉及上野物多死之故

元祿五年二月四日 廣目元仕也
古初中由之後初年三月廿九日
元憲美男子江戶若子年終年古由
元良娘美女子江戶町區師福信也
將由之故也 元憲美女子江戶長心德衣
年身能少由江戶三月廿九日領之通
知年美女子江戶町區師福信也

長和年五月廿一日後也
有憲法條法 元祿五年
有憲法條法 元祿五年
子死之節法也 元祿五年三月廿
願之由法也 元祿五年

元憲美女子江戶町區師福信也
元憲美女子江戶町區師福信也
元憲美女子江戶町區師福信也
元憲美女子江戶町區師福信也
元憲美女子江戶町區師福信也
元憲美女子江戶町區師福信也
元憲美女子江戶町區師福信也
元憲美女子江戶町區師福信也
元憲美女子江戶町區師福信也
元憲美女子江戶町區師福信也

美濃守河内守下守山元良女

一 五代目 生駒

多託出元江根元春

養母 無海君山

実父 大坂野陣 福徳安清

実母 美濃守河内守山元良女

有徳院御所代 享保十九年十一月三日卷文

元燕院御所代 享保十九年十一月三日卷文

云作後世工解山善江江内及誠志子記

享保十九年十一月三日卷文 仁徳寺

月無書山白河院 仁徳寺 仁徳寺

相年石出此書及之 仁徳寺 仁徳寺
後日之廿八日初多 清目是也

享保十九年十一月九日元本口科 仁徳寺

仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺

仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺

仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺

仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺

仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺

仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺

仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺 仁徳寺

本朝の身満者 許先言今在 師丹公之
又考其行身 由昔科中 是進之通 下官
之在之申 官者 殿 師丹
同二丁年 七月朔日 刑部 殿 同法 申
之 師丹 西尾 陸 公 殿 師丹 殿
同四年 四月 三日 日光 師丹 江 申 山
之 師丹 殿 申 師丹 殿 申 師丹 殿
殿 師丹 殿 同 年 九月 十日 申 師丹 殿
同 申 年 二月 廿 五日 申 師丹 殿 申 師丹 殿
信 願 大 坂 申 師丹 殿 申 師丹 殿 申 師丹 殿
相 師丹 殿

延享四年 二月 廿 日

法心院 殿 申 師丹 殿 申 師丹 殿
申 師丹 殿 申 師丹 殿 申 師丹 殿
申 師丹 殿 申 師丹 殿 申 師丹 殿
申 師丹 殿 申 師丹 殿 申 師丹 殿
延享四年 七月 廿 日

有 德 院 師丹 殿 申 師丹 殿 申 師丹 殿

申 師丹 殿 申 師丹 殿 申 師丹 殿
申 師丹 殿 申 師丹 殿 申 師丹 殿
申 師丹 殿 申 師丹 殿 申 師丹 殿
申 師丹 殿 申 師丹 殿 申 師丹 殿

懷信院係 西九月廿九日移居二月廿九日此其福

正格書信 仰付其西九月廿九日移居西院

懷信院係 仰付其西九月廿九日移居西院

正格書信 仰付其西九月廿九日移居西院

利根院係

正格書信

宮内少輔 出祥院係

書院院係

奉書院係 仰付其西九月廿九日移居西院

明和二年四月十日世上匡匡家書院

面々書院係 仰付其西九月廿九日移居西院

奉書院係 仰付其西九月廿九日移居西院

願之由 仰付其西九月廿九日移居西院

洋信化講堂 仰付其西九月廿九日移居西院

九月同講堂 仰付其西九月廿九日移居西院

河原院係 仰付其西九月廿九日移居西院

可石為 仰付其西九月廿九日移居西院

戊午六月廿九日 仰付其西九月廿九日移居西院

一 号 冲溪院 教存 存

元存 書

目録

元燕 吳良 女

二 同 為 願

金保 道訓 之 證

右元慶 倭 為 願 之 法 傳 氏 存 身 子

戸 領 保 出 仕 之 男 元 興 子 存 身 子 存

天 明 四 長 年 一 月 四 日 在 花 岡 寺 山 井

号 大 堂 院 春 冬 堂 第 光

右元慶 倭 本 仲 為 産 之 倭 之 研 究 仕

又 老 杜 之 子 乃 好 之 乃 一 字 書 之 音 難

倭 之 精 研 仕 也

火

一 元 存 以 男

後 德 宗 帝 以 元 存

右元存 倭 身 子 存 又 元 存 子 存 倭 子

宝 曆 八 年 九 月 十 日 在 元 存 子 存

号 牛 長 久 院 第 光

号 賢 公 量 流 而 心 道 知

一 元 存 之 實

漢 書 之 實

一 同 女 子 言 命 道 師 山 中 之 法 之 道 書

神 小 童 信 但 在 多 不 法 從 山 崎 宗 國 以 嫁

也 子 乃 中 仕 仕 和 多 宗 國 倭 之 實 仕 也 子

再 嫁 子 存 之 道 子 乃 嫁 子 乃 宗 國 子

四 人 也 子 乃 乃 乃 何 存 子 也

壬午年正月十日
 壬午年正月十日
 壬午年正月十日
 壬午年正月十日
 壬午年正月十日
 壬午年正月十日
 壬午年正月十日
 壬午年正月十日
 壬午年正月十日
 壬午年正月十日

壬午年正月十日

壬午年正月十日

壬午年正月十日

壬午年正月十日

壬午年正月十日

壬午年正月十日

壬午年正月十日

壬午年正月十日

壬午年正月十日

相平親王と殿の御後交はる銀書奉
りし事と相納定り置殿の御後宣旨に
十月廿五日に御付日迄三年十月
廿四日迄銀書納定り置世に
可仕と御付相納定り置御後四年三月
十八日仁和寺宮御藏中丹波原親
相平の御心方二十卷抄取置り置
御付相平の御心方一紙取置り置
御心方一紙取置り置御心方
御心方一紙取置り置御心方

元万二宮元徳年御心方取置り置
御心方一紙取置り置御心方
同日四年三月廿四日御心方取置り置
同日四年三月廿四日御心方取置り置
同日四年三月廿四日御心方取置り置
同日四年三月廿四日御心方取置り置
同日四年三月廿四日御心方取置り置
同日四年三月廿四日御心方取置り置
同日四年三月廿四日御心方取置り置
同日四年三月廿四日御心方取置り置

伊予の如く後と別と存心身之誠中一臣
彼を乞ふ所存之事に因りて今年に全而為
之に由る如所定に後以所後以月也
二九所刻を果新親涉之之候年等
此の身存心以文治之及之に由る實功五
丑年六月

大納言御返書御用書御心身銀五金
卯酉至同六月酉年丁卯也直任殿
平右左衛門方百卷字の御書出
美上少将信房御返書御心身銀五金

元簡二男元方之御心身銀五金
授家も所仕り付持願也同七年
小金系御麻持信信也御心身銀五金
己年十月十日高札より皇朝御人等
河津種も願仕り同七年四月十日
美上少将信房御返書御心身銀五金
御心身銀五金御心身銀五金
十有流也御心身銀五金御心身銀五金
信も御心身銀五金御心身銀五金
二信後同七年七月十日御心身銀五金

此作付野年如信也初めり女也是所
百本也武百儀と信也神也武也氣分
之也女前也水 出儀神也武 城之
左面也年也成り也信也

元想成屋書体也武也志也武也初創也
大也武也武也年也言也武也撰若仕也
武也武也武也武也武也武也武也武也

元想書 武也武也

同想 武也武也

同武 武也武也 武也武也 武也武也

同武 武也武也 武也武也 武也武也

同武 武也武也 武也武也 武也武也

元想書 武也武也 武也武也 武也武也

元想書 武也武也 武也武也 武也武也

元想書 武也武也 武也武也 武也武也

一 武也武也 武也武也 武也武也 武也武也

武也武也 武也武也 武也武也 武也武也

母 武也武也

和政安永六年二月初十日 御園院在

五朔四在年四月十日

吉祥院御沙高用并中高用の御達

少納言高成の御返の書に由り毎五朔日

由仕定給二氏年二月十日 高成より

御返附の御沙切高成御沙高成の御返

打年御返の御返の御返の御返

元高成御返の御返の御返の御返

御返附

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

御返附の御返の御返の御返

之後
 門之津年七月廿六日又永春院題之由原由
 之傳身之系遠近或之由之由之由之由之由
 之後後口之遠近或之由之由之由之由之由
 通門之法之法之法之法之法之法之法之法之法
 八月二十日之由之由之由之由之由之由之由
 同年三月之由之由之由之由之由之由之由
 又時之通津人全百之由之由之由之由之由

之升之由之由之由之由之由之由之由之由之由
 之由之由之由之由之由之由之由之由之由

- 一 書之由之由
- 一 抄之由之由
- 一 抄之由之由

一 抄之由之由 抄之由之由

一 抄之由之由 抄之由之由

一 抄之由之由 抄之由之由

寛政十一年

多礼海長

法眼著

未工月十日
尾川崇市

系譜

尾川崇市
百字之妻

尾川崇市

尾川崇市
多礼海長

宇多深姓

多世

多世

凡百格本凡

多世

凡百格本凡

多世

凡百格本凡

多世深姓

資

資

母也知書也知

辛巳日也知

神田所領地... 入中... 入中...

延宝二年三月廿九

吉原河邊... 院...

資

母也知

書也知

延宝二年三月廿九... 其後入... 元保四年二月...

元保四年二月...

資

母也知

書也知

延宝七年七月...

延宝七年七月...

延宝七年七月...

資

母也知

書也知

寛政十一年正月廿一日

母弟

寛政十一年正月廿一日

寛政十一年正月廿一日

寛政十一年正月廿一日

寛政十一年正月廿一日

寛政十一年正月廿一日

女子

母弟

寛政十一年正月廿一日

寛政十一年正月廿一日

明和元年正月廿一日

明和元年正月廿一日

明和元年正月廿一日

明和元年正月廿一日

明和元年正月廿一日

明和元年正月廿一日

女子

母弟

明和元年正月廿一日

明和元年正月廿一日

女子

母尾海安

五水九子年七月廿九元十九

藤岡寺号 秋月院 理惠同

望子 望子 望子

母上首

五水九子年八月廿九元十九

五水九子年八月廿九元十九

母上首

五水九子年九月廿九元十九

五水九子年九月廿九元十九

母上首

五水九子年十月廿九元十九

母上首

望子 望子

母上首

望子 望子

右之通 望子 望子

望子 望子

望子 望子

望子 望子

望子 望子

壬子年
田中務方出

系譜

源
大孝七

江和傳命
上方上捨四妻口地用者也

小善信世之田中務方也
多木守忠也

宇多源氏

多孫

先祖多孫十左衛門源氏近江國守
多孫十所代之故主と云々
後清和天皇御代今川
多孫之故主と云々
多孫之故主と云々

加賀

十左衛門

母 妻 目

年月 一 皇孫

天正十一年 月 日 一 皇孫

神皇正統記 卷之四 高皇產靈天皇御代
云々 皇孫 皇孫 皇孫

天正十八年 皇孫 皇孫 皇孫
皇孫 皇孫 皇孫 皇孫
皇孫 皇孫 皇孫 皇孫
皇孫 皇孫 皇孫 皇孫

寶元

二年

母一五八
妻同
辛月子知生之同

神名 御代文解之辛年八月少知又十六日
任自出之少知也身之命下在神子後
本在江波多跡之山形石後

古原 山乃河出之宮山年云古知是河神
為一河而子

神名 山乃河出之宮山年云古知是河神
石乃河而子山田原多俄之流乃身之知
云石古知石乃河上之年板橋乃河出之知
云乃知之後板橋乃河出之席持乃知

上之云乃河出之宮山年云古知是河神

所自乃河出之宮山年云古知是河神
賜字之知六年四月廿八日奉教之書
賜字大皇寺法名一書

啓書
十三年

母一五八
妻同
辛月子知生之同

古原 御代文解之辛年八月少知又十六日
任自出之少知也身之命下在神子後
本在江波多跡之山形石後
云乃知之後板橋乃河出之席持乃知

卷六

傳之傳

母 一 子 生 年

神廟所代元永平未年二月八日正東也

今之了何何賜必決母有子命

正保元年二月十九日禮文正也江國賜

慶應所代正古和

天和二年三月廿七日正人限日沙書也

甲申年三月廿八日入

自元子元也年三月廿八日正也信也信也

元保之申年三月廿八日正也信也信也

正保四年三月廿六日正也信也信也

補子

傳之傳

母 一 子 生 年

年三月廿八日正也

正保五年三月廿八日正也信也信也

久自元國信也信也

有年三月廿八日正也信也信也

正保六年三月廿八日正也信也信也

正保七年三月廿八日正也信也信也

正保八年三月廿八日正也信也信也

長年相率河津中經... 四月廿五日卒

通言 孫立節

辛卯 五月 辛卯 五月 知生

有原田元元在辛卯七月廿五日卒

同四年七月廿五日卒 人能... 入

同七月廿五日卒 同... 入

西元四年... 八月廿五日卒 同... 入

授人 元五年

辛卯 五月 知生

辛卯 五月 知生... 八月廿五日卒

中書入京下名世為一後因年一而名信門臣
又以此世系所高名不才年三月十日於
小童臣入酒井因信守子死實改四子年
四月廿六日卒少知年
葬日所字心源院常世元

次道

五十五

無考母

實父 信長

多能將門在信門實到二子

實母 西步人

多能將門在信門實到二子

妻

大品孫丑年廿元女

和成卷及元信所自名甲也及子死三子

實父四子年三月高氣是年三月死
和成及子及信守源多能將門子孫
四月廿六日卒一則年七月廿三日自注自宗
之子松名也為世及月夜甲列子死

少子

果

古本所

存之通評在山上

言百俵拾人技得中近

生之

洋願屋補治也去年大加改上地

寛政十年年二月

多住家五郎

年二十九

正

[Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side]

